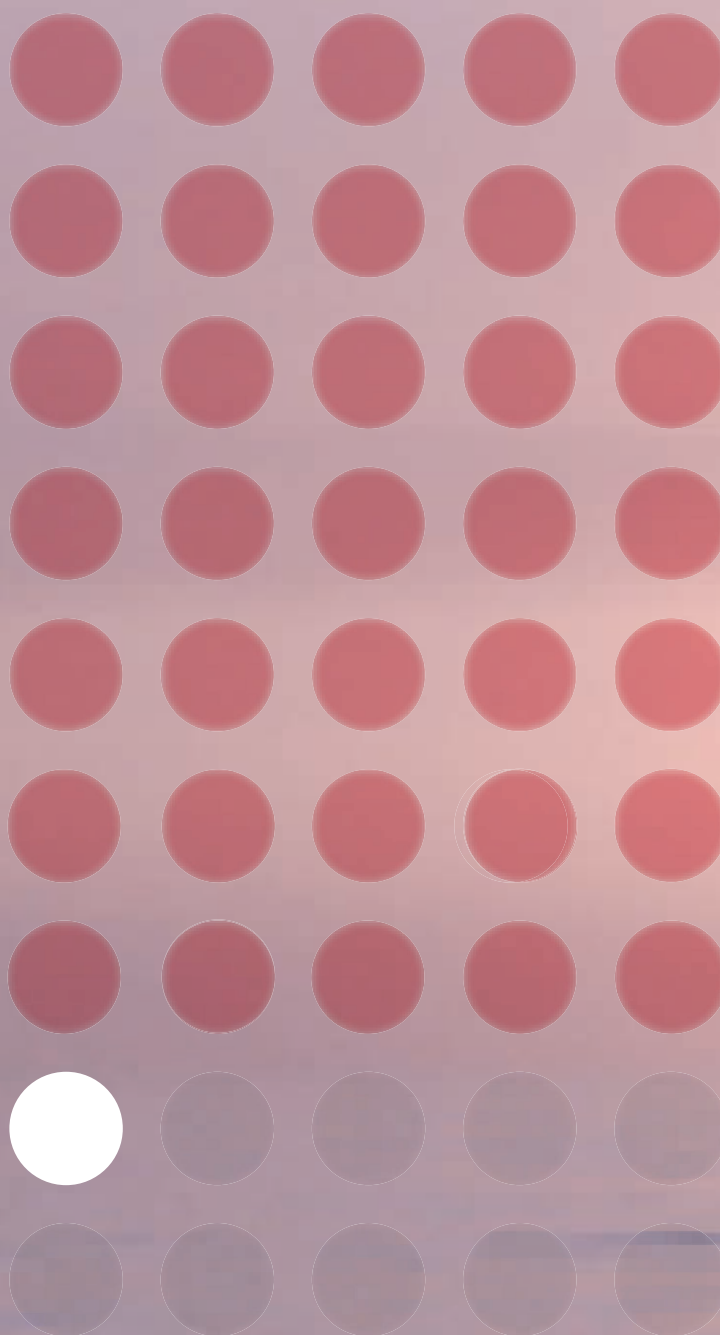




第36回 タカシマヤ文化基金

*Takashimaya Charitable Trust
for Art and Culture*



ご挨拶

高島屋は2021年創業190周年を迎えました。これを機にアーカイブス活動の重要性を再認識し、改めて活動の活性化を推進してまいります。

当社の目指すアーカイブス活動は、高島屋創業以来の経営・営業記録などの史料から様々な美術作品に至るまでを収集保存し、経営資源として活用、「高島屋の基本的価値観」を社内外で共有することです。なかでも、公益信託タカシマヤ文化基金は「未来に向けた取り組み」として不可欠な活動と位置づけています。

当社のアーカイブスを紐解くと、海外輸出用の工芸品の下絵を若き日の竹内栖鳳に依頼するなど美術家の育成に努めるとともに、1909年には広く一般の方に美術品を紹介する「現代名家百幅画会」を開催、2年後には美術部を創設し、人々の暮らしの中に美と文化を提案することで社会とともに活動してまいりました。このような歴史や伝統の下で、1990年公益信託タカシマヤ文化基金が設立され、皆様のお力を借りながら現在に至るまで助成を続けております。

これからも、次世代に向けて、新たな美を創造する新鋭美術家たちの優れた活動や美術団体に対して支援を続けてまいります。

2026年2月吉日

株式会社 高島屋

設立趣意書

当社は、豊かな生活文化の創造に貢献するため、「生活に美を、潤いを」を標榜し、明治44年に美術部を創設し今日まで和・洋を問わず芸術作品を世に紹介してまいりました。

特に近年、国際化・情報化の進展に伴い、社会環境はますます“人間らしさ”“精神的・文化的豊かさ”を熱望しており、これにこたえてわが国美術界は隆盛と芸術的精華を極め、輝かしい作品を世に送り出しています。

これらの作品は、日本の伝統の美術文化と明治以来の西洋の美術文化との交流の中で諸作家たちの厳しい精進によってつくり出されたものであります。

今後とも、わが国美術界が豊かな芸術的成果を産み出すためには、これら諸作家の示した芸術上の進取の精神と、わが国の美的伝統が次代を担う若い芸術家たちに確かに継承されていくこと、またわが国美術界が、海外の芸術的新風を吸収できるような環境作りが必要であります。

そのためには、力のある有望新鋭美術家たちが、日本美術界のあらゆる分野で将来を担っていくことができるよう、彼らに物心両面にわたる支援を与える必要があります。ところが、若手の美術家たちが置かれている現実の環境は必ずしも恵まれたものではなく、寒心に堪えないというのが正直なところであります。

また、美術の国際交流に対しても一歩踏み込んだ支援が必要で、シンポジウムの開催と共に、国内外の美術文化の発掘・新興について継続的に支援する必要があります。

当社は、これまでの美術界とのかかわりの中で、明日の美術の創造を担う新鋭美術家たちの優れた活動を助成し、美術の国際交流のためのシンポジウムの開催への助成や、国内外の美術文化の発掘・新興への助成を目的として公益信託を設立することを発起致しました。

1990年2月26日

事業内容

1. 新鋭作家への助成

- ① 絵画（日本画、洋画）、②版画（写真）、③彫刻・工芸、④デザイン（ファッション、建築）等様々な分野で優れた創作活動を行い、自己の芸術目標をもち、美術界の発展に寄与する、将来性のある作家への助成。

2. シンポジウム開催団体などへの助成

明日の美を探究するシンポジウム等を開催し、国際的な文化交流の発展に寄与する団体および、国内外の美術文化の保存・発掘・振興に寄与し、美術文化の発展に顕著な実績をあげた団体に対する助成。

3. その他の必要な事業

助成対象と選考方法

1. 助成対象

■新鋭作家への助成

絵画・版画・彫刻・工芸・デザイン等、様々な分野で創作活動を行っている新鋭作家への助成。

■団体への助成

シンポジウム開催団体、ならびに国内外の美術文化の保存・発掘・振興に寄与する団体への助成。

2. 選考方法および助成金額

■新鋭作家の選考

当基金の推薦委員の推薦を参考に、運営委員会で選考する。
助成金額は、タカシマヤ美術賞として、一人200万円。
特に優れた創作活動には、助成金を増額することもある。

■団体の選考

助成を希望する団体は、募集締切日までに所定の申請書によって受託者宛に申し込むこと。選考は、応募団体の中から運営委員会が行い、助成金額を決定する。
詳細は募集要項を確認して下さい。

3. 助成の決定と時期

原則として毎年11月中旬以降に決定し、翌年1～2月に贈呈式を開催し助成する。

公益信託概要

名 称	公益信託タカシマヤ文化基金	(特定公益信託)
設立年月日	1990年2月26日	
主 務 官 庁	文部科学省文化庁	
委 託 者	株式会社高島屋	
受 託 者	三菱UFJ信託銀行株式会社	
信託管理人	中田 朋子	弁護士
運 営 委 員	建畠 哲	運営委員長、京都芸術センター館長
	金子 賢治	茨城県陶芸美術館館長
	岡部あおみ	美術評論家
	袴田京太郎	武蔵野美術大学教授
	辻 けい	美術家
	山梨絵美子	千葉市美術館館長
	橋本 善八	世田谷美術館館長

当公益信託に関するお問合せ

〒164-0001 東京都中野区中野3丁目36番16号

受託者 三菱UFJ信託銀行株式会社

事務局 リテール受託業務部公益信託課

T E L 0120-622372 ※土日祝日を除く9時～17時にてお願いします

〒103-0027 東京都中央区日本橋2丁目12番10号 高島屋グループ本社ビル

委託者 株式会社高島屋

事務局 企画本部経営企画部ESG推進室

T E L 03-3211-4111



堀 貴春 〈陶芸〉

〈略歴〉

1996 東京生まれ
2001～2014 千葉県在住
2014 東京学館船橋高等学校 美術工芸科 卒業
2016 愛知県立瀬戸窯業高等学校 専攻科 修了
2019 金沢卯辰山工芸工房 修了
2020 金沢市にアトリエ設立

〈主な個展〉

2018 「堀貴春特別展」石川ふれあい昆虫館（石川）
2018 「蟲のかたち」山ノ上ギャラリー（石川）
2018 「堀貴春の世界」ギャラリー DiEGO（東京）
2019 「息を呑むフォルム」ギャラリー creava（石川）
2019 「堀貴春の世界」福屋（広島）
2019 「美を宿す」ギャラリー mus（東京）
2020 「堀貴春展」山ノ上ギャラリー（石川）
2020 「動き出す白」ギャラリー DiEGO（東京）
2021 「堀貴春陶展 - 白磁昆虫の世界 -」日本橋三越本店（東京）
2021 「3店舗同時開催・TAKAHARU HORI」THE SHOPHOUSE、Wild Wander、Moon of Silence（香港）
2021 「堀貴春展」ギャラリー数寄（愛知）
2021 「HORI TAKAHARU Solo exhibition」ギャラリー creava（石川）
2022 「堀貴春陶展」新宿高島屋（東京）
2023 「Rebooting 断ち切り再起動する」水屋（東京）
2023 「Takaharu Hori Solo exhibition」縁煌（石川）
2024 「堀貴春展」ギャラリー数寄（愛知）
2024 「Insects dreaming of their future」ギャラリー DiEGO（東京）
2025 「複眼からみえる視点」新宿高島屋（東京）

〈主なグループ展〉

2017 「Asia Contemporary Art Show」Conrad Hong Kong（香港）
2018 「ART FAIR TOKYO」東京国際フォーラム（東京）
2018 「Singapore Contemporary "A WORLD OF ART"」Suntec Singapore Convention（シンガポール）
2018 「KOGEI Art Fair Kanazawa」Hyatt Centric Kanazawa（石川）22年、23年、24年、25年
2019 「3331ART FAIR」3331 Arts Chiyoda メインギャラリーエリア推薦（東京）
2019 「いきもの狂騒曲」茨城県陶芸美術館（茨城）
2019 「IKOMI2019」とうしん美濃陶芸美術館（岐阜）
2020 「テーブルウェアフェスティバル・大賞者コラボ展示」東京ドーム（東京）
2020 「WHAAAAAT'S STUDIO OPENING」The Place Taipei（台湾）
2021 「美の予感」高島屋4店舗巡回展（東京日本橋、京都、名古屋、大阪）
2021 「世界一美しい虫展」ハウステンボス美術館（長崎）
2025 「INSECTS×SIMOSE- 昆虫アートの現在地」下瀬美術館（広島）

〈受賞歴〉

2015 四日市萬古陶磁器コンペ「優秀賞」
2015 第68回瀬戸市美術展「市長賞」
2017 第73回金沢市工芸展「金沢商工会議所会頭賞」
2017 第11回美濃国際陶磁器展 入選
2018 第74回金沢市工芸展「金沢市長最優秀賞」
2019 テーブルウェア大賞 2019「大賞・経済産業大臣賞」
2021 第12回美濃国際陶磁器展 入選
2021 笠間陶芸大賞展「奨励賞」
2022 第16回パラミタ陶芸大賞展 ノミネート
2025 ファエンツァ国際陶芸展 入選

〈パブリックコレクション〉

金沢卯辰山工芸工房
茨城県陶芸美術館



「ELEC Actuate Mantis」
2025年



「Rebooting-010」
2025年



ななからげ あやの
七搦 綾乃
〈彫刻〉

〈略歴〉

- 1987 鹿児島県生まれ
2009 広島市立大学芸術学部美術学科彫刻専攻卒業
2011 広島市立大学芸術学研究科彫刻専攻修了

〈主な個展〉

- 2016 「第10回 shiseido art egg 七搦綾乃展」資生堂ギャラリー（東京）
2017 「Bank ART Under35 2017」BankART1929（神奈川）
2018 「アベルト 08 七搦綾乃」金沢21世紀美術館（石川）
2019 「七搦綾乃 rainbows edge」アートギャラリーミヤウチ（広島）

〈主なグループ展〉

- 2017 「Cosa c'è? - 形の根拠を探して -」
DISEGNO ASSOCIAZIONE PER LE ARTI CONTEMPORANEE（マントヴァ／イタリア）
2020 「9人の目 9人のアーティスト」渋谷ヒカリエ CUBE1.2.3（東京）
2021 「Sustainable Sculpture」KOMAGOME SOKO（東京）
2021 「フロム・ジ・エッジー 80年代鹿児島生まれの作家たち -」鹿児島県立美術館（鹿児島）
2022 「リアルゆくえ」平塚市美術館（神奈川）他全国5会場を巡回
2023 「美の予感 2023 - 象・彫・刻・塑 -」高島屋日本橋店美術画廊（東京）他全国5会場で開催
2025 「コレクション展 OHARA コレクション・ハイライト-収集の軌跡：絵画・彫刻編」大原美術館（岡山）

〈受賞歴〉

- 2016 「第10回 shiseido art egg 賞」受賞
2017 「Tokyo Midtown Award 2017（アート部門）」準グランプリ受賞
2020 「第1回広島文化新人賞」受賞
2023 「VOCA 展 2023」VOCA 奨励賞、大原美術館賞 受賞

〈パブリックコレクション〉

大原美術館
公益財団法人泉美術館
公益財団法人みやうち芸術文化振興財団



rainbows edge XVII
2023年



rainbows edge XX
2025年



撮影:野村佐紀子

はん いしゅ
潘 逸舟
〈現代美術〉

〈略歴〉

1987 上海生まれ
2025 東京藝術大学大学院映像研究科博士後期課程修了

〈主な個展〉

2012 「海の形」京都芸術センター ギャラリー北 (京都)
2013 「Study Country」VCA School of Art (メルボルン)
2015 「隣り合う記憶」iscp (ニューヨーク)
2016 「As far as I know」ARATANIURANO (東京)
2017 「私たちの条件」URANO (東京)
2017 「The Drifting Thinker」MoCA パビリオン (上海)
2019 「不在大地」ANOMALY (東京)
2020 「いらっしゃいませようこそ」神戸アートビレッジセンター (兵庫)
2024 「波を耕す」ANOMALY (東京)
2025 「アートは美しくなければならない」青森県立美術館 (青森)



《波を耕す》 シングルチャンネルビデオ 13分58秒
2024年

〈主なグループ展〉

2015 「In the wake : Japanese Photographers Respond to 3/11」ボストン美術館 (ボストン)
2015 「Whose game is it?」ロイヤルガレジオブアーツ (ロンドン)
2016 「Sights and Sounds: Japan」ジューイッシュ・ミュージアム、(NY)
2017 「ESCAPE from the SEA」National Visual Arts Gallery (NVAG) (クアラルンプール)
2018 「Behind the Terrain - Sketches on Imaginative Landscape」小金井アートスポットシャトー 2F (東京)
ニャ・サン・コレクティブ (ハノイ; スタジオ・カラハン) (ジョグジャカルタ)
2019 「アートセンターをひらく」水戸美術館 (茨城)
2020 「Thank You Memory - 醸造から創造へ」弘前れんが倉庫美術館 (青森)
2020 「日産アートアワード 2020」ニッサンパビリオン (神奈川)
2021 「MOT アニュアル 2021 海、リビングルーム、頭蓋骨」東京都現代美術館 (東京)
2021 「記憶は地に込み、風を越え 日本の新進作家 vol. 18」東京都写真美術館 (東京)
2021 「どこもない会話への対応策 - 第三波フェミニズムの視点で」金沢 21 世紀美術館 (石川)
2022 「高松コンテンポラリーアート・アニュアル vol.10 ここに境界線はない。/?」高松市美術館 (香川)
2022 「国際芸術祭『あいち 2022』: STILL ALIVE」愛知県美術館 (愛知)
2022 「六本木クロッシング 2022 展: 往来オーライ!」森美術館 (東京)
2023 「被膜虚実 / Breathing めぐる呼吸」東京都現代美術館 (東京)
2023 「Videos by the Sea Public Screening Program」Aranya Art Center (北京)
2023-2024 「ホーム・スイート・ホーム」国立国際美術館 (大阪)、丸亀市猪熊弦一郎現代美術館 (香川)
2023 「イン・ビトウィーン」埼玉県立近代美術館 (埼玉)
2023 「How Far How Close」Aranya Art Center (北京)
2024 「How to face our problems」代官山ヒルサイド (東京)
2024 「第 11 回 アジア・パシフィック・トリエンナーレ」クイーンズランド州立美術館 (ブリスベン)
2025 「Video Journey」San Art (ホーチミン)
2025 「Asia Avant-Grade film festival 2025」M+ 美術館 (香港)
2025 「非常の常」国立国際美術館 (大阪)
2025 「シャンデリア CHANDELIER」半井桃水館 (対馬市内各所)

〈受賞歴〉

2013 新鋭賞 (「在地未来」何香凝美術館にて)
2014 アジアン・カルチュラル・カウンシル グランティー
2020 日産アートアワード グランプリ

〈パブリックコレクション〉

愛知県美術館 (愛知)、青森県立美術館 (青森)、
クイーンズランド州立美術館 / 近代美術館 (ブリスベン)、国立国際美術館 (大阪)、
高松市美術館 (香川)、東京都現代美術館 (東京)、東京都写真美術館 (東京)、
弘前れんが倉庫美術館 (青森)、ベネッセハウス、直島 (香川)、
何香凝美術館 (深圳)、森美術館 (東京)、タグチアートコレクション、
日産アートコレクション など



《Not Ocean》 シングルチャンネルビデオ 16分23秒
2024年

東京都美術館

<助成内容>

東京都美術館は、日本初の公立美術館として1926年に開館し、2026年に100周年を迎えます。開館以降は、日本美術を牽引する数多くの展覧会を開催するなど、公立美術館の原型となるような活動を続けてきました。

2012年の大規模改修に伴うリニューアルに際し、「すべての人に開かれたアートへの入口となる」という新たなミッションを掲げ、その実現に向けた事業としてアート・コミュニケーション事業が始動しました。

今回のシンポジウムおよびレクチャーシリーズは開館100周年記念事業のひとつであり、このアート・コミュニケーション事業の実践を「関わりの回路づくり」「ケア」「アクセシビリティ」といったキーワードからふりかえり、公共美術館の役割の変遷と、これからのあり方について考えます。まず、7月末から始まるアート・コミュニケーション事業の小展示に合わせ、8月にはレクチャーシリーズを開催します。市民参加、ケアと美術館、ユニバーサルミュージアム、ろう文化、子どもの美術館体験、公共性など、当館の実践から生まれた多様なテーマを専門家とともに掘り下げていきます。そのうえで、12月にはメインシンポジウムを開催し、美術館の社会的役割の変遷や、100年先を見据えた展望について、哲学者や文化人類学者などを招いて議論します。

アート・コミュニケーション事業では、医療・福祉・教育といった他分野との連携や、市民参加の実践を重ねてきました。しかし、美術館が「見るための場所」から、他者と協働し「共に過ごし、共につくる場所」へと広がる可能性は、まだ十分に社会へ伝わっていません。そこで今回、「関わりの回路づくり」「ケア」「アクセシビリティ」といった視点から美術館を捉え直すことで、普段美術に触れる機会の少ない方にも関心をもってもらい、誰もが関われる文化の場としての美術館を提案する機会としたいと考えています。

なお、本事業では、登壇者招聘に関する費用等、シンポジウムおよびレクチャーシリーズ開催に必要な諸経費に助成金を活用いたします。

○2026年8月～12月実施予定



ワタリウム美術館

<助成内容>

ワタリウム美術館は、1990年9月にスイスの建築家マリオ・ボッタ設計の建物で開館した私設美術館です。アンディ・ウォーホルやキース・ヘリングなど世界の現代美術や日本の若い現代アーティストだけでなく、南方熊楠、岡倉天心など日本の文化を支えた人物についても調査し、独自の視点で発表しています。展覧会をより深く理解してもらうため、講演会、ワークショップ、研究会、現地への研修旅行なども数多く開催しています。

ワタリウム美術館では、Judd Foundationの企画とバックアップのもと「ドナルド・ジャッド展|絵画、オブジェ、建築」(2026年2月15日～6月7日(予定))を開催します。日本の美術館における約25年ぶりのドナルド・ジャッド展であり、ジャッドの建築作品に注目した日本初の展覧会となります。また本展ではおそらく日本初公開となるジャッドの初期の風景画を展示し、具象から抽象へと変化するジャッドの知られざる側面を見せると同時に、初期の関心が三次元の作品はもちろん、晩年の建築作品まで続いていることを示します。

ついでに、本展の開催にあわせ、2026年2月15日(予定)に、シンポジウム「JUDDを考える」を開催します。本シンポジウムでは、ジャッドの息子であり、Judd Foundation共同代表を務めるフレイヴィン・ジャッドを招聘し、さらに国内の美術館館長、アートディレクターらを招き、第一部「ジャッドの作品について」第二部「ジャッドの家具とデザイン」第三部「マーフアとアートによる街づくり」をテーマに討論を行います。

シンポジウム開催のための会場費、出演者の謝礼・滞在費、通訳費、運営費などに助成金を活用いたします。

○2026年2月15日実施予定



東京都現代美術館

<助成内容>

東京都現代美術館は、日本の戦後美術を中心に国内外の現代美術を体験的に研究、収集、保存、展示するための機関として1995年3月に開館しました。このたび、現代美術館と前衛展40周年記念シンポジウム実行委員会は、共催で国際シンポジウム「ボンビドゥ・センターの前衛展：その成果と継承」(仮称)を開催する運びとなりました。

1986年12月9日～1987年3月2日にパリ・ボンビドゥ・センター5階で開催された「前衛芸術の日本1910-1970」展は、展示された作品の数の多さ(600点超)、展示面積(現在二つの特別展が開催されるスペースを全部使用)、造形美術、応用美術、建築・デザイン、写真、文学と多岐のジャンルにわたる展覧会であった点で、過去最大規模の海外における日本展でした。しかも日本文化の発信という発想ではなく、ボンビドゥ側のイニシアティブで始まったという点で画期的なものでした。

2026年度という展覧会後40年を記念して、日本国内では初めて同展を振り返り、美術史、美術交流史の中に位置づけ、次世代の学芸員や研究者に継承することを目的として、国際シンポジウムを開催いたします。

本シンポジウムは、フランスと日本からの登壇者を迎え、一般参加者とともに、前衛展とはどのような展覧会であったのか、それが遺したものはなんであったのかを検証する貴重な機会となります。前衛展に携わった関係者のみならず、前衛展を知らない世代の学芸員や研究者らにより共同して考察が行われれば、伝統的なアカデミズムに満足せず、先鋭的に創作活動を行ったこの時代の作家たちが、海外の芸術動向を受容しつつ、自らのアイデンティティを模索した足跡について、新たな研究の地平線が開け、それがまた次の展覧会企画へ結実するきっかけとなることを期待されます。

本企画への助成金は、シンポジウム登壇者招聘にかかわる費用等、本シンポジウム開催に関する諸費用として活用させていただきます。

○2026年11月～12月実施予定



タカシマヤ文化基金受賞者一覧

「新鋭作家奨励賞」・「タカシマヤ美術賞」(1996年度より名称変更)

第1回 (1990年度)

日本画 大野俊明氏
彫刻 舟越林桂氏
ファイバークラフト 小正和氏

第2回 (1991年度)

洋画 小杉小二郎氏
陶芸 小北川待子氏
造形 北山善夫氏

第3回 (1992年度)

日本画 浅木野村均氏
彫刻 戸谷秀成氏
版画 戸谷成雄氏

第4回 (1993年度)

日本画 川端健生氏
洋彫刻 室松健美氏
版画 井紫朗氏

第5回 (1994年度)

日本画 箱崎睦昌氏
彫工 刻芸 箱崎圭三氏
版画 高橋慎彦氏

第6回 (1995年度)

該当者なし

第7回 (1996年度)

日本画 森田りえ子氏
洋染 画色 石垣定哉氏
版画 福本潮子氏

第8回 (1997年度)

日本画 宮崎いつき氏
洋彫刻 松田環氏
版画 笹谷晃生氏

第9回 (1998年度)

日本画 池田真弓氏
洋工 画芸 川村悦子氏
版画 清水六兵衛氏

第10回 (1999年度)

日本画 鹿見喜陌氏
彫刻 下川昭宣氏

第11回 (2000年度)

洋画 押江千衣子氏
工芸 芸 畠山耕治氏

第12回 (2001年度)

日本画 川崎麻児氏
彫刻 深井隆氏

第13回 (2002年度)

版画 池磯良二氏
洋画 江毅氏

第14回 (2003年度)

造形 海老塚耕一氏
日本画 岡村桂三郎氏
工芸 芸 中信行氏

第15回 (2004年度)

陶芸 田嶋悦子氏
彫刻 三沢厚彦氏

第16回 (2005年度)

彫刻 伊藤誠氏
デザイン 橋本夕紀夫氏
写真・映像 やなぎみわ氏

第17回 (2006年度)

洋画 中村一美氏
洋画 野又穂氏
ファッションデザイン ひびのこづえ氏

第18回 (2007年度)

工芸 家川隆浩氏
彫刻 斉藤典彦氏
日本画 出島藤典彦氏

第19回 (2008年度)

彫刻 青木野枝氏
現代美術 束本芽美氏
絵画 堂本右美氏

第20回 (2009年度)

絵画 伊庭靖子氏
彫刻 棚田康司氏
日本画 八木幾朗氏

第21回 (2010年度)

絵画 王舒野氏
現代美術 秋山さやか氏
現代美術 ヤノベケンジ氏

第22回 (2011年度)

彫刻 袴田京太郎氏
絵画 三瀬夏之介氏
陶芸 森野彰人氏

第23回 (2012年度)

版画 井出創太郎氏
陶彫 芸 刻 徳原丸鏡子氏
版画 井出鏡真氏

第24回 (2013年度)

絵画 浅井裕介氏
写真 志賀理江子氏
絵画 町田久美氏

第25回 (2014年度)

漆 芸 笹井史恵氏
現代美術 小池田剛学氏
絵画 井田剛学氏

第26回 (2015年度)

現代美術 青野文昭氏
竹工 芸 田辺小竹氏
陶芸 藤笠砂都氏

第27回 (2016年度)

現代美術 大巻伸嗣氏
金工 留守玲氏
陶芸 和田的氏

第28回 (2017年度)

陶芸 伊藤剛俊氏
現代美術 宮永愛子氏
現代美術 目【mé】氏

第29回 (2018年度)

陶芸 稲崎栄利子氏
現代美術 金氏徹平氏
現代美術 田中功起氏

第30回 (2019年度)

現代美術 風間サチコ氏
映像 小泉明郎氏
現代美術 contact Gonzo

第31回 (2020年度)

彫刻 中谷ミチコ氏
陶芸 五味謙二氏
映像 山城知佳氏

第32回 (2021年度)

日本画 堀江栞氏
ファッション 森永邦彦氏

第33回 (2022年度)

彫刻 中島史英氏
陶芸 竹内紘三氏
現代美術 岩崎貴宏氏

第34回 (2023年度)

彫刻 藤原彩人氏
陶芸 澤谷由子氏
現代美術 百瀬文氏

第35回 (2024年度)

テキスタイル 宮田彩加氏
現代美術 鈴木ヒラク氏
現代美術 持田敦子氏

タカシマヤ文化基金助成先一覧

助 成 団 体

第1回（1990年度）

美術評論家連盟
鹿子木孟郎調査委員会
財団法人 小山敬三美術振興財団
美術雑誌総合研究所
明治美術学会

第2回（1991年度）

日中近代美術シンポジウム
第2回国際文化財生物劣化会議
国際美術史学会 1991年東京会議
美術館教育普及国際シンポジウム

第3回（1992年度）

財団法人 元興寺文化財研究所
北方ユーラシア学会
明治美術学会
財団法人 天野博物館
日中近代美術シンポジウム

第4回（1993年度）

国際美術館会議開催実行委員会
第2回国際文化財生物劣化会議組織委員会
ボストン美術館
財団法人 淀江町教育文化事業団

第5回（1994年度）

国際美術館会議開催実行委員会
ボストン美術館

第6回（1995年度）

該当団体なし

第7回（1996年度）

国際陶芸アカデミー日本会議'96
財団法人 横浜市美術振興財団

第8回（1997年度）

財団法人 山種美術館
美術評論家連盟

第9回（1998年度）

東京国際ミニプリント・トリエンナーレ実行委員会

第10回（1999年度）

ヘルシンキ2000日本委員会

第11回（2000年度）

東京藝術大学文化財保存学日本画研究室

第12回（2001年度）

日韓美術展実行委員会
東京国際ミニプリント・トリエンナーレ実行委員会

第13回（2002年度）

該当団体なし

第14回（2003年度）

大学版画学会 ispa JAPAN実行委員会

第15回（2004年度）

学校法人 多摩美術大学
財団法人 せたがや文化財団

第16回（2005年度）

宮城県美術館

第17回（2006年度）

横浜美術館
取手アートプロジェクト実行委員会
社団法人日本版画協会
国際交流部 Prints Tokyo 2007

第18回（2007年度）

長崎県美術館

第19回（2008年度）

第4回福岡トリエンナーレ
横浜美術館

第20回（2009年度）

水戸芸術館
橋本平八・北園克衛展実行委員会
日本中国文化交流協会

第21回（2010年度）

神奈川県立近代美術館
関西中国書画コレクション研究会
横須賀美術館

第22回（2011年度）

神奈川県立近代美術館
アート・アーカイヴ・プロジェクト
宮城県美術館

第23回（2012年度）

水戸芸術館
東京都写真美術館

第24回（2013年度）

横浜トリエンナーレ組織委員会
版画京都展実行委員会

第25回（2014年度）

川崎市岡本太郎美術館
公益財団法人長崎ミュージアム振興財団

第26回（2015年度）

公益財団法人 せたがや文化財団（世田谷美術館）
公益財団法人 東京都歴史文化財団 東京都写真美術館
町田市立国際版画美術館

第27回（2016年度）

岐阜県美術館
兵庫県立美術館
横浜トリエンナーレ組織委員会

第28回（2017年度）

該当団体なし

第29回（2018年度）

洞爺湖芸術館
茨城県近代美術館

第30回（2019年度）

大原美術館
千葉市美術館
東京都現代美術館

第31回（2020年度）

埼玉県立近代美術館
川崎市市民ミュージアム

第32回（2021年度）

静岡県立美術館
一般社団法人戦没画学生慰霊美術館 無言館

第33回（2022年度）

神奈川県立近代美術館
平塚市美術館
公益財団法人水戸市芸術振興財団

第34回（2023年度）

大分県立美術館
豊田市美術館
練馬区立美術館

第35回（2024年度）

名古屋市美術館
宇都宮美術館
デザイン史学研究会

